

U-Home

U-Home

だより

〒708-1222
岡山県津山市西中 329-1

株式会社 **U-Home**

TEL 0868-36-4372

FAX 0868-36-4498

✉ u-home@mx1.tvt.ne.jp

第 68 号

今年のお盆は珍しく雨模様の日が続きました。日中はかなり暑くなるものの、今のところお盆を境に多少過ごしやすくなってきたように思います。

最近のように異常気象だといわれてきてからは、気象が毎年毎年いろんな顔を見せます。今年の顔は何ととっても局地的な集中豪雨でしょう。

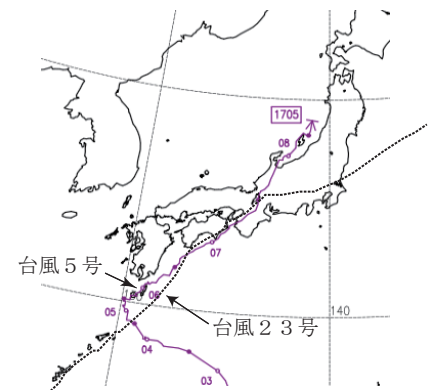
7月5日から6日にかけて発生した「九州北部豪雨」ではたいへん悲惨な爪痕を残しました。1時間に100mm以上の雨とか50年に一度の大雨などの表現をよく耳にしました。めったに出されない『大雨特別警報』が相次いで発表されたりしました。九州北部豪雨をもたらした、同じところで豪雨が降り続く『線状降水帯』という耳慣れない言葉を、今年は覚えてしまいました。

お盆前に上陸した台風にも肝を冷やしましたね。記録的な長寿台風で、7月21日午前9時に発生してから8月9日午前3時に消滅するまで、18日18時間と史上第3番目の記録となりました。(長寿台風という呼び方は何か間違っているような気がします。長寿というのは動物や植物が非常に長生きをするときに呼ぶ言葉で、その裏にはめでたい、喜ばしいという意味が隠れているような気がします。台風に付けるにはふさわしくないような?)

非常にノロノロとした台風で、各地に大雨や突風などの大きな爪痕を残しました。私的には台風がやってくると、その大きさと進路がとても気になります。何故かというと進路によっては広島風が吹くからです。広島風が吹く地域で生まれ育った人は広島風に対しそれほど恐怖の感じないようですが、大人になってから初めて広島風を知った私などはいまだに広島風が怖くて仕方がありません。したがって台風のゆくえは特別に気にかかります。

この台風は私的には非常に恐ろしいものがありました。というのも、この地に未曾有の大災害を引き起こした、「平成16年台風23号」と奇跡が非常に似たコースをたどりそうだったからです。しかし、台風5号が宮崎県沖を通り足摺岬をかすめるころになって、私はこの台風は広島風が吹かないと確信しました。(以下はあくまで私的な見解ということをご理解ください)

平成16年の台風23号は、大型で勢力も非常に強い台風でしたから単純に比べることはできませんが、宮崎県沖に差し掛かった時にはすでに広島風が吹き始めていました。今回は四国沖に差し掛かっても「風まくら」さえかかりません。なぜでしょう。



広戸風が吹くためには、基本的には中国山地の南側に低気圧があり、日本海側から低気圧に向かって流れる風が、中国山地で収束される必要があります。すなわち北には高気圧が必要なはずですが。今回台風5号が九州に近づいた時に、日本海には低気圧がありました。強さの違いはあれど、低気圧同士でつり合い、広戸風にはならないのかも？と期待を込めて見守っていました。案の定、広戸風は吹きませんでした。いずれにしても那岐山麓に住む者にとっては、この先もこのような危ないコースは通らないようにと台風にお願いするのみです。

5月の終わりごろ事務所の裏で非常に大きなアリを見つけました。体調は約2cm、こんな大きなアリは今までに見たことがない、と思って調べてみました。

日本で最大のアリは「クロオオアリ」と「ムネアカオオアリ」で約1cmで、中でも「ムネアカオオアリ」のメスは18mmで日本最大とありました。まさにこれが日本最大の女王アリです。

アリといえば、「ヒアリ」がニュースを賑わせています。ヒアリは南米原産の約2.5mm～6mmくらいのアリで、アメリカ・中国・台湾・オーストラリアなど太平洋沿岸の諸国に蔓延してきています。きわめて攻撃性が強く、爬虫類や小型哺乳類をも集団で攻撃して捕食することが知られています。人間が刺されると、アルカロイド系の強い毒で、痛みやかゆみ、発熱、じんましん、激しい動悸などの症状が引き起こされる場合があるばかりでなく、アナフィラキシーショックにより死に至る可能性すらあります。日本国内に蔓延したら非常に深刻な問題になりそうです。

約20年前に猛毒を持つ「セアカゴケグモ」が各地の港などで見つかり、今回と同じような騒ぎになりました。はたしてその後はどうなったのでしょうか？残念ながらすでにほとんどの都道府県に定住していると考えられています。

セアカゴケグモはヒアリのように手当たりしだいには噛みつきません。こちらが何もしなければクモも何もしてこないのです。これに対してヒアリは超攻撃的で繁殖力も旺盛です。なんとか水際で食い止めてもらいたいですね。

日本では今年になりはじめて神戸港で発見されて以来、今まで6都府県で発見されていますが、気づけばすべて中国発のコンテナがらみです。中国のいやがらせではないかという人もいますが、当の中国ではすでに爆発的に繁殖しており、もう完全にお手上げ状態みたいです。畑作業をする人が一番よく刺されるそうで、そのうち「農家の皆さんその他屋外で作業などをされる人は抗ヒスタミン剤を用意して出ましょう。アナフィラキシーの危険性がある人はアドレナリン自己注射薬を忘れずに！」などと毎日のニュースで放送される事になどならないように。



日本ミツバチの飼育 (その15)

昔から畑づくりなどをされている方なら特によくご存知の通り、昔の畑にはうるさいほどのミツバチが飛び回っていました。いったいいつごろからでしょうか、いくら花が咲いていても、ミツバチなどをほとんど見なくなっていました。たまに見かけても、養蜂家の飼っている西洋ミツバチのみです。日本ミツバチはどこに行ってしまったのでしょうか？ こういう疑問が投げかけられると必ず次のような原因が列挙されます。

- ①ネオニコチノイド系農薬
- ②地球温暖化
- ③酸性雨
- ④女王の近親交配、DNAの異変
- ⑤スムシ・オオスズメバチの害など



日本ミツバチ



西洋ミツバチ

西洋ミツバチは世界中で飼われており、人為的に飼われているためいろいろな病気も発生しています。予防法や治療法、薬も次々に開発されます。

日本では養蜂業者は届け出の義務があります。(趣味で飼う日本ミツバチも届け出の義務が始まりました。) 法定伝染病は届け出の義務があります。アメリカフソ病は治療の方法がなく焼却処分しなければなりません。これに対して日本ミツバチは病気に強く、西洋ミツバチにみられるような伝染病などはないものとされてきました。

近年日本の東の方で、西洋ミツバチ由来の「アカリダニ」という非常に小さいダニがミツバチの気管内に繁殖し死を引き起こし、それが群れの中で爆発的に広がり群れが消滅してしまう、という病気が広がり始めました。だんだんと西進し、中部地方では町村単位でミツバチが一匹も居なくなったという所も出始めました。最近では近畿地方から中国地方にも発生が確認されているようです。しかし、これは治療法があり、早い段階でメントールあるいはギ酸を正しく処置すれば、全滅に至らずに回復するということです。

日本ミツバチを飼っていると、蜂の^{こす}児捨てという現象を目にします。日本ミツバチは西洋ミツバチと違い、何らかの原因により子(幼虫)が死ぬと巣の外に運び出します。たいていは夜のうちに巣から引き出し、巣箱の底板の上に落とします。明るくなってから、巣箱の外に運び出します。朝早く底板を引き出すと、白い幼虫が底板の上に落ちています。4～5匹も落ちていてそれが2～3日続くと何か悪い病気にかかったかと心配になります。しかし自然にそれは治まります。

蜂の大量児捨てで群れが消滅するという事象が報告され始めました。それは鹿児島県の大隅半島で2000年ごろから始まりました。しだいに北上、九州を席卷し、四国や中国地方にも広がり今や全国へと広がり始めました。2010年頃には山口県や四国などで壊滅的な群れの消滅が見られました。いずれにしても、原因不明でなすすべ無しといった様子です。西洋ミツバチなら養蜂を守るために、各地の家畜衛生保健所、農水省、大学、製薬会社などが一丸となって退治に躍起になるところでしょうが、趣味の域を出ない日本ミツバチの養蜂家相手では、商売にならないから誰も手を出さないのが現状です。

さて、昨年の分蜂期にはたくさんの群れを確保することができて、所有する日本ミツバチが18群にもなった私ですが、今やちょっとした専門家気取りでいました。今年の1月には春の分蜂に備えるための「ミツバチ講習会」など開いた手前、春の分蜂は何としてもそれなりの数を確保したいと思っていました。

分蜂に備えそろそろ爆発的に群れを大きくしようとする2月後半に、突然それはやってきました。

会社敷地内で飼っている4群れのうちの1つで数匹の児捨てがありました。児捨ては一気に増えました。多い時には底板の上に200匹以上、さらにそこから運び出して地面に捨てた幼虫が200匹以上、本当にむごい状況です。



インターネットで対策を探ります。除菌剤が良いとあったので買って吊るしてみました。殺菌剤が効果があったと載っていたので買って巣にスプレーしてみました。群れを強くするにはヨモギ乳酸菌が良いというものもあったので、これも振りかけてみました。いずれも効果なし。

一か月ほどすると他の巣箱にも児捨てが始まりました。もうこれは明らかに伝染病です。4月後半になるとすべての巣箱で児捨てをしています。本来なら分蜂の最盛期を迎えているはずですが、今年の分蜂は絶望的になりました。



健全な状態



児捨てにより減少



ほぼ壊滅状態

ネットを通じて何か方策はないものか呼び掛けてみました。驚きの回答がありました。岡山県瀬戸内市の愛好家の方とその仲間4人で、昨年一年間に80群れが大量児捨てでなすすべもなく全滅したということでした。

色々調べてみると、この伝染病はサックブルードウィルスによるものだろうということがわかりました。西洋ミツバチが感染するサックブルード病は大した被害もなく自然治癒するらしいのですが、東南アジアから日本にかけて生息する東洋ミツバチには重篤な症状を引き起こすということです。ただしこの病気は一過性で、来年同じ所で営巣しても、もうこの病気は起こらないみたいです。しかし、一部の記事に九州などでは5年に一度大流行しているとあったので、また5年後に同じようなことが起きるのかと少々不安ですが、そのころには何か対策ができていないと期待しつつ、今後も日本ミツバチを飼い続けていこうと思っています。ということで、18群あったミツバチが今は奈義町にたった2群のみとなりました。

平成29年8月22日